

## 第 39 回世界遺産委員会決議に係る保全状況報告の方向性について(案)

## - 海域WG関連 -

要請事項	記載内容の方向性等
<p>○日本海や資産内におけるトドの健全な個体群を維持するための締約国の努力に留意し、資産内及びより広域な海上景観において安定～増加するトドの個体群を維持するために、採捕上限頭数を定期的に点検・調節するよう、強く勧める</p>	<p>○ *遺産地域内海域の海洋生態系の保護管理の取組 2015年1月に提出した保全状況報告のうち、「Iトドの年間割り当て数及び捕獲数の情報のアップデート及び資産内の個体数の動向を報告すること(決議項目4)」に係る、報告内容を時点更新する予定</p>

－ 河川工作物関連 －

要請事項	記載内容の方向性等
<p>○締約国に対し、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルシャ川の3つのダムの影響を十分に緩和するため、地方自治体及び地域住民と緊密に協議しつつ、これらのダムについて完全撤去という選択肢の検討を含む更なる改善を継続すること、また、水面下のコンクリートの除去という選択肢も検討すること</li> <li>・表流水と伏流水の正常な流れを回復させるとともに河川の枝分れや蛇行化を促進することでサケ科魚類の産卵環境を改善させるために、旧孵化場に通じる道路や橋を完全に廃止・撤去することを、強く勧める</li> </ul>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*ダムの更なる改良の検討について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダムの必要性（別添資料による）</li> <li>・水面下のコンクリートを除去するという改良方法を検証するための水理模型実験の実施と結果</li> <li>・ダムを一部撤去した場合のシミュレーションを実施し、防災機能など検証</li> <li>・段階的なダム改良と下流への影響把握など</li> <li>・モニタリングの継続</li> </ul> </li> <li><u>※別添資料</u> ルシャ川ダムの設置経緯等 これまでの改良の取り組み</li> <li>*橋と道路の取扱いについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の橋等の利用状況と撤去の可能性</li> <li>・産卵環境の改善と通行確保の両立の必要性</li> <li>・河床路による対応の可能性</li> <li>・河床路の実証実験の検討</li> <li>・実証実験の結果を踏まえ、今後の橋等の取扱いの検討</li> <li>・地域関係者との合意形成に向けた取組</li> </ul> </li> </ul>
<p>○締約国及びIUCNのSSCサケ科魚類専門家グループに対し、現在得られる最善の科学的知見に基づき、最も適切かつ実践可能な解決策に関するコンセンサスを見出すこと、及び、これらの課題に関する助言を行うIUCNの諮問ミッションを招聘する可能性を検討することを勧告する</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*河川工作物AP専門家等による現地検討の取組</li> <li>*招聘の検討に向けた今後の予定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な改良方法の決定に向けた段階であるため、招聘を判断する段階ではないこと</li> <li>・今後、招聘の可能性の検討</li> </ul> </li> </ul>

－ 共通 －

要請事項	記載内容の方向性等
<p>○締約国に対し、2017年の第41回会合での世界遺産委員会による検討のために、世界遺産センターに2016年12月1日までに、本資産の保全状況や上記の実施状況について、1ページの要約を含む最新の報告書を提出するよう要請する</p>	<p>・別紙のスケジュールに基づき、提出期限までに対応していく</p>